

財団法人横浜市ふるさと歴史財団 平成21年度事業計画

(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

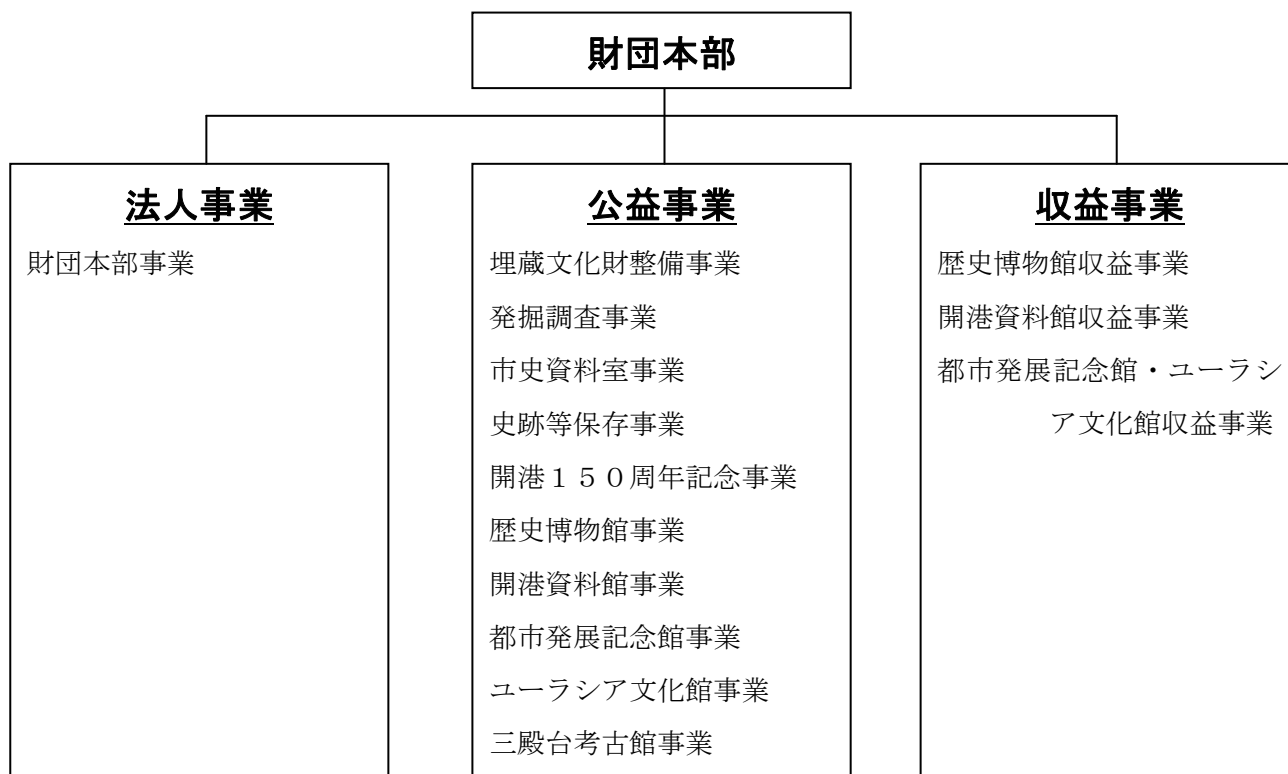
はじめに

当財団は、横浜市との連携のもとに、市民のふるさと意識の醸成及び市民文化の発展に寄与することを目的に、横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保管および公開を行うとともに、歴史や文化財に関する普及啓発を進めています。

横浜開港150周年を迎えた今年度は、企画展、出版、講座・講演会をはじめとする普及啓発事業やイベント事業に取り組みます。日頃から歴史に親しんでいる方々にも、普段歴史に触れる機会のない方々にも、横浜開港150周年を契機に歴史に親しみ楽しんでいただき、後世へと残していくために、事業全体で施設連携を強めながら財団の総力をあげて取り組んでいきます。

また、平成20年12月からの公益法人制度改革により、当財団は特例民法法人となりましたが、公益財団法人の認定を取得し、次期指定管理者を目指していくために、財団の機構・規則等を一新していきます。

これまでも、横浜市の文化行政の一翼を担いつつ各種の事業を展開してきましたが、今後もPDCAサイクルなどにより自己点検を怠らず、より魅力的な事業を展開し、歴史や文化財の普及啓発に取り組んでまいります。



法 人 事 業

[運営方針]

指定管理施設をはじめ当財団の運営管理を統括するとともに、各施設が連携して行う事業について全体調整を行うほか、財団法人横浜市ふるさと歴史財団理事会・評議員会運営事務、その他本部事務を行います。

また、平成20年12月からの公益法人制度改革により、当財団は特例民法法人となりましたが、公募が予定される次期指定管理者を目指していくためにも、財団の機構・規則等を一新し、公益財団法人の認定及び次期指定管理者獲得に向けた準備に入ります。

I 財団本部事業 (事業予算 57,530千円)

1 財団本部事業 (寄附行為第4条第8号)

上記の方針に基づき、以下の事業を行います。

- (1) 指定管理施設が連携して行う事業の全体調整
- (2) 理事会・評議員会の開催等
- (3) 財団人事・労務・財務の管理、研修の実施等
- (4) 財団外部評価委員会に関すること
- (5) 公益認定取得に関すること
- (6) 次期指定管理獲得に関すること
- (7) その他本部事務

公益事業

I 埋蔵文化財整備事業（事業予算 73,088千円）

[運営方針]

埋蔵文化財センターで、港北ニュータウン開発に伴う出土品・遺構測量図等の記録資料の整理を行い、成果を報告書としてまとめます。出土品・記録類は適正に保管し、展示・講座等に活用します。また、政府の緊急雇用創出事業の一環として、出土品保管再整備事業を実施し、事業を促進します。

一方、埋蔵文化財センターの調査・研究の成果を市民に還元するとともに、埋蔵文化財保護への一般の関心を高めるため、広報誌発行や遺跡見学会の開催・展示・講演会・資料貸出等を行うほか、歴史博物館での講演会や埋蔵文化財出土地域での展示・講演会なども実施していきます。

なお、埋蔵文化財センターは平成21年度下半期に、都筑区勝田から栄区の旧野七里小学校へ移転することとなり、市内各地に収蔵している資料についても旧野七里小学校へ集約していきます。

1 埋蔵文化財整備事業（寄附行為第4条第1・5号）

港北ニュータウン開発に伴う出土品・遺構測量図等の記録資料の整理を行い、成果を報告書としてまとめるほか、昨年度に引き続き、写真資料のデジタル化・出土品保管状況の改善事業を実施します。

(1) 遺物整理・調査研究

項目	対象遺跡等	所在地
遺物整理・調査研究	北川表の上遺跡の整理・報告（6／6年次）	都筑区早渕3丁目
	大原遺跡発掘遺物等の基礎整理（2／2年次）	都筑区早渕2丁目
	大棚杉山神社遺跡の整理（2／2年次）	都筑区中川中央1丁目
	加賀原遺跡発掘遺物等の基礎整理（2／2年次）	都筑区加賀原1丁目

(2) 報告書発行

項目	対象遺跡等	所在地
発掘調査報告書発行	北川表の上遺跡	都筑区早渕3丁目

(3) 資料保管・整理

項目	目的・意図
資料デジタル化	フィルムのデジタル化と整理を行い、写真資料使用の利便性向上と普及啓発・資料貸出などの業務に資する。
出土品保管・再整備 （緊急雇用創出事業）	政府の緊急雇用創出事業として、収蔵・保管されている出土品について整備し、保管状況の改善をはかる。



遺物整理

2 普及啓発事業（寄附行為第4条第2・5号）

広報誌発行や遺跡見学会・体験学習の開催・展示・講演会等を行います。また、講演会や埋蔵文化財出土地域での展示・講演会なども実施していきます。今年度の体験学習は、一部で日曜日の開催を試行します。

項 目	参加者見込数	目的・意図
文化財ウィーク事業 「地域の遺跡」展 平成21年秋	1,600人	文化財課が実施する文化財ウィーク事業に協力し、市内図書館で写真パネルおよび遺物の展示を行い、該当地域の埋蔵文化財を紹介する。あわせて研究講座・体験学習を行う。無料。 会場：未定
企画展 「横浜市指定の考古資料」展 平成21年12月12日（土） ～平成22年1月11日（月）	3,200人	港北ニュータウン文化財整備事業のうち、整理作業が終了し調査報告書を刊行した遺跡、あるいは発掘調査事業で調査を実施した中で話題性のある遺跡について速報的に紹介する。無料。 会期中研究講座を1回実施する。 会場：横浜市歴史博物館
考古学講座 平成21年11月20日（金） ～11月27日（金） （連続2回）	140人	専門職員を講師として埋蔵文化財に関する講座を開催する。同時にパネル展を実施する。 会場：横浜市歴史博物館
体験学習 6・7・8・12・2月 最終土曜日を原則とし、一部日曜日の開催も試行する	各15人 計90人	体験型の啓発活動を通して、参加者の興味を惹くことで、埋蔵文化財の理解を深める。 会場：埋蔵文化財センター 地域への出前も実施予定
広報誌等の発行		「埋文よこはま」を発行する。 （発行11,000部、年2回）
遺跡見学の案内		茅ヶ崎城・稲荷前古墳群・市ヶ尾横穴群等への見学者の案内を行う。
資料の貸出・展示		写真フィルムの有料貸出を行う。 学校・地区センター・区役所等で地域に関連する遺物等の貸出・展示を行う。
講師派遣		文化団体、サークル等の講演会へ専門職員を派遣する。



講座の様子



横浜の遺跡展



体験学習

Ⅱ 埋蔵文化財発掘事業 (事業予算 5,761千円)

1 発掘調査事業 (寄附行為第4条第3号)

文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の発掘調査及び発掘調査の成果を整理し、報告書を刊行する業務を、横浜市等から受託します。

(1) 発掘調査

項 目	対象遺跡等	委託者／所在地
三溪園内苑流れ追加調査	国指定史跡三溪園の庭園修復工事関連調査。	(財)横浜市三溪園保勝会 横浜市中区本牧三之谷

(2) 整理報告書作成

項 目	対象遺跡等	委託者／所在地
中区 No. 12 遺跡 (平台貝塚)	既存道路の拡幅事業関連。平成 20 年度に発掘調査を実施。	横浜市中区役所 県立緑ヶ丘高校付近



平台貝塚の発掘調査



三溪園内苑流れの発掘調査

Ⅲ 市史資料室事業（事業予算 48,301千円）

〔 運営方針 〕

開港150周年を受け、歴史資料に対する市民ニーズが高まるなか、横浜市史編纂事業で収集・保管された資料の保管・整理を行うとともに、資料の閲覧・展示を行います。また、歴史的に重要な行政資料や昭和期以降の歴史資料の収集、調査や新規資料の整理を行い、成果を報告書としてまとめます。

1 市史資料室事業（寄附行為第4条第1・2号）

上記の運営方針に基づき以下の事業を行います。

項目	利用者見込数	目的・意図
閲覧室運営	3,500人	資料及び昭和期以降の横浜の歴史に関するレファレンスの対応を行う。
資料の保管・管理		資料を適切に保管・管理し、資料台帳データの点検、更新および資料検索用目録の処理を行う。
資料の収集、調査、整理		歴史的公文書および昭和期以降の歴史的資料の収集、調査および新規に受け入れた資料の整理を行う。
情報発信、普及広報	3,500人	市史資料室にて、資料の公開展示を行う。 公開資料：未定
		ホームページに、目録情報や所蔵資料概要を掲載し、資料の電子公開を行う。 アクセス件数：10,000件

Ⅳ 史跡等保存事業（事業予算 15,819千円）

〔 運営方針 〕

横浜市八聖殿郷土資料館にて、漁具や農具を中心とした収蔵資料を公開し、また地域の市民や近隣小中学校への普及活動を実施します。また、市民にとって憩いの場となるよう、国指定史跡称名寺庭園ほか計4史跡の保存を行います。

1 八聖殿郷土資料館事業（寄附行為第4条第7号）

横浜市の歴史・文化財関連施設である当館の常設展示を公開し、また普及啓発事業として、市民ニーズが高く入館者増が期待できる月例講座・集中講座および歴史散歩などを実施します。

項 目	利用者見込数	目的・意図
展示室運営	10,000 人	昭和 8 年建造の資料館で、八聖人像と市内旧農漁村で使用されていた漁具・民具を展示する。 観覧料：無料
講座の開催	240 人	市民対象に毎月 1 回（年 12 回）の連続講座を行う。また、3 か月に 1 回（年 4 回）の集中講座を行う。 参加費：無料
歴史散歩の開催	40 人	連続講座で紹介した地域を中心に、年 2 回実際に現地を案内する。 参加費：無料
学校との連携	400 人	本牧地域の小学校と、八聖殿の活用について検討し、学校の校外学習として利用してもらう。
情報発信		ホームページおよびブログにより、八聖殿郷土資料館の情報や本牧地区について紹介する。また、リーフレット・チラシやポスターを周辺自治体へ配布し、本施設を P R する。



八聖殿外観



漁具展示（1階）



民具展示（2階）

2 史跡保存事業（寄附行為第 4 条第 7 号）

横浜地域の文化財である、国指定史跡称名寺境内・県指定史跡稲荷前古墳群・県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群・上行寺東遺跡復元整備地の維持管理を行います。

管理対象施設等	事業内容・所在地など
国指定史跡 称名寺境内	所在地：金沢区金沢町
県指定史跡 稲荷前古墳群	所在地：青葉区大場町
県指定史跡 市ヶ尾横穴古墳群	所在地：青葉区市ヶ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	所在地：金沢区六浦二丁目



称名寺境内



稲荷前古墳群



市ヶ尾横穴古墳群



上行寺東遺跡

V 開港150周年記念事業 (事業予算 11,501千円)

[運営方針]

「横浜開港150周年」を迎え、ペリー上陸の地・日米和親条約締結の地に建ち、開港期からの横浜の歴史資料を保管している開港資料館をはじめ、歴史博物館・都市発展記念館・ユーラシア文化館・埋蔵文化財センターなど横浜市の歴史、文化財施設を運営する当財団は、その総力を挙げて、「開港150周年記念事業」に取り組んでいきます。

そのため、各館で「横浜開港」を通史の観点から再検証し、その成果を各施設の連携により、展示、講座・講演会、体験学習、出版事業等に生かします。

本年度は、次に掲げる開港150周年記念事業および関連事業を実施します。

1 企画普及事業 (寄附行為第4条第2・4・5・6・8号)

開港150周年を記念し、当財団の職員の専門性や所蔵・保有する資料等を生かし、図書の刊行、講演・講座・シンポジウムなどの記念事業および関連事業を実施します。さらには、コンサートなど市民参加型、市民とともに楽しむイベントの数々を実施します。

項目	事業名称	内容	主体	備考
企画展	開港150周年記念企画展	各館にて、次の記念展示を行う。また、講座等の関連事業を行う。 〈歴史博物館〉 特別展「海賊-室町・戦国時代の東京湾と横浜-」ほか計5回 〈開港資料館〉 「港都横浜の誕生」ほか計3回 〈都市発展記念館〉 「横浜建築家列伝」ほか計2回 〈ユーラシア文化館〉 「東西交流の証」	各施設	詳細は各施設事業参照

シンポジウム等	近代横浜を生きた女たち	横浜郷土史団体連絡協議会&はまぎん産業文化振興財団共催のシンポジウムを行う。	開港資料館	
	神奈川湊から横浜港へ	横浜郷土史団体連絡協議会共催のシンポジウムを行う。同時に歴史博物館のエントランスホールで連絡協議会に関するパネル展を開催する。	歴史博物館、開港資料館	
ツアー	開港場新潟と北前船の湊を訪ねて	開港五港の一つ、新潟を見学する。	歴史博物館	
出版等	「横浜 歴史と文化」刊行	財団学術専門職員が総力を挙げて、横浜の通史を紹介する。	総務課	
	ハマの中華街150年	中華街との協働で、記念出版物を作成する。	開港資料館	
	DVD「神奈川ニュース」の制作	昭和20年代から40年代にかけてのニュース映像の普及版DVDを順次、制作・販売する。	都市発展記念館	
イベント	スタンプラリー	歴史を学びながら開港資料館・都市発展記念館・歴史博物館を巡るスタンプラリーを実施する。	総務課	
	たまくすプロジェクト	環境創造局「150万本植樹」との協働事業。たまくすの苗の育て親を市民から公募し、植樹する。	開港資料館	
	都筑アートプロジェクト2009「ニュータウン・ピクニックー遺跡を巡るアートー」	大塚・歳勝土遺跡公園内にある都筑民家園と共催で、遺跡公園に新進気鋭の現代アート作家の作品を野外展示し、原始と現代のコラボを楽しんでもらう。アートフリーマーケットも行う。	歴史博物館	
	開港150周年記念フェスタ	6月6日(土)7日(日)全館無料で各種催しを行う。大塚・歳勝土遺跡公園では野焼きを行う。	歴史博物館	
	4区のチェンジ! 大変貌展ー横浜市編入70年の歴史	博物館+北部4図書館合同郷土展「横浜市北部地域の150周年」都筑区・青葉区・港北区・緑区の各図書館と博物館の協働で、資料の巡回展示を行う。	歴史博物館	
	横浜Fマリノス展(仮称)	横浜Fマリノスとの協働でミニ展示を行う。	歴史博物館	

エントランスホールコンサート	7月4日(土) ～横浜開港150周年を記念して～ ピアノ・ソプラノ・フルートによる コンサート	歴史博物館	
吹奏楽と講演	幕末の横浜で英国駐屯軍などが演奏 した音楽を神奈川フィルハーモニー の演奏で、解説とともに紹介する。	開港資料館	
URANIWA Square (仮称)	中庭を利用して市民参加型のイベン トを行う。	都市発展 記念館、ユ ーラシア 文化館	
華やかなりし時 山手の洋館パネル 展	横浜市緑の協会との共催事業。企画 展「横浜建築家列伝」の関連企画と して、山手西洋館の歴史をテーマに したパネル展示を山手234番館に て8月下旬に開催する。	都市発展 記念館	
「開港記念会館を 知る講座」	中区・横浜開港資料館との共催事業。 開港記念会館の歴史をテーマにした 連続講座と、ジャックサポーターズ ガイドによる建物見学。6月実施。 全3回。	都市発展 記念館	
コンサート「音のひ ろがり：ユーラシア 東西交流」(仮称)お よび参加型イベント	ユーラシア全域に広がる楽器「口琴」 を紹介。「2009日唄修交140周年」 にちなみ、オーストリア口琴奏者と 市民演奏家の初共演も行う。	ユーラシ ア文化 館・埋蔵文 化財セン ター	
ミニコンサート	岡村小学校の体育館を会場にしてミ ニコンサートを開催する。	三殿台考 古館	

VI 歴史博物館事業（事業予算 426,867千円）

〔 運営方針 〕

横浜市歴史博物館は、開港に至るまでの市域の歴史を「人々の生活」の視点から解明し、市民が「ふるさと横浜」の歴史と文化に親しみ、また、学ぶのに寄与することを目指します。そのために、高い専門性に裏付けられた事業を進めるとともに、地域や学校との連携を一層深めて、市民の期待や要望に即した活動を幅広く展開していきます。

本年度は、開港150周年、都筑・青葉区制15周年、横浜市歴史博物館開館15周年の節目にあたる年度です。関連の記念事業を積極的に展開する一方で、市民との協働による市域民俗調査の実施、学校団体利用促進のための月曜日開館、集客イベント等を継続し、市民サービスの向上と積極的な業務内容の改善、運営の効率化に努めていきます。

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

博物館の基幹となる事業であるので、寄贈資料の受入をはじめ積極的に資料の収集を進めていきます。

（1）資料の収集

項目	目的・意図
資料の寄贈・寄託	市民に理解と協力を求め、資料を流出・滅失・破損から守る。
実物資料の購入	企画展や常設展で使用する資料を収集。 購入予定：中世の交通・交易に関わる資料、近世の東海道などの交通・交易に関わる資料
レプリカ製作	市域に関する資料の複製等を行う。 複製予定：市川橋遺跡出土「武蔵国」関係漆紙文書 林際寺文書 都筑郡市尾郷関係文書
マイクロ撮影	市域に関する古文書資料のマイクロフィルム化と整理を行う。 撮影予定：萩原家文書300点

（2）資料の修繕

古文書の裏打ち、考古資料の修復、美術工芸資料の修復を行う。

上矢部村耕作絵図、赤羽刀（脇差）、伝西川1号オルガン

（3）資料の保存

歴史博物館IPMや燻蒸により、収蔵資料・展示資料の保存環境を維持するほか、資料保管箱・土器台座・帙などの資料保管用品を作成する。

（4）資料の整理活用

歴史博物館等で保管する考古・歴史・民俗資料の整理を進める。

収蔵資料および展示資料の写真撮影・整理を進め、貸出を行う。

実施予定：データ入力2,000点、写真撮影20件、写真整理・登録600件、インターネット公開50件、写真貸出60件、資料貸出10件、資料熟覧20件

（5）図書資料の公開

一般図書文献の分類整理を進め、図書閲覧室での公開を行う。

実施予定：図書資料収集2,000点、分類データ入力2,000点

(6) 画像資料等の貸出

画像資料等を有料で貸出し、収益の向上と魅力資源の活用を図る。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

市民協働の一環として、民俗調査（フィールドワーク）を市民調査員（仮称）とともに実施します。

(1) 調査研究

項 目	目的・意図	今年度の成果目標
基礎的調査研究1：収蔵資料に関する調査研究		
誠拙周樗関係資料の研究（2／3年次）	近世後期に白隠らとともに臨済禅復興に尽力した誠拙周樗について、誠拙資料とともに古月派の関係資料も収集し、近世後期に横浜で活躍した禅僧たちの事績を明らかにする。	誠拙および古月派に連なる臨済禅僧の資料の所在確認を行う。また、当館所蔵の誠拙関係資料の調査を行う。
軍記物語の研究（2／3年次）	当館所蔵の軍記物語をとりあげ、その資料的位置づけを考察する。	数多くの軍記物語を比較することで、所蔵資料を分析する。
基礎的調査研究2：地域資料に関する調査研究		
杉山神社関係資料の収集と研究（3／3年次）	古代から横浜において中心となる神社である「杉山神社」について、古代からの史料を収集・検討することで、各時代における神社の位置づけ、ならびに、歴史的過程を明らかにする。	杉山神社に関係する中世から近世に至る資料群の収集、整理をすすめる。また、式内社の論社となっている杉山神社に関する調査も合わせて行う。
香蔵院珎祐記録の基礎的研究（3／3年次）	横浜市内に拠点をおいた鶴岡八幡宮塔頭のひとつである香蔵院珎祐の記録から、室町時代の様子を明らかにする。	鶴岡八幡宮の経営に影響を持ち、神奈川湊付近に所領を持っていた香蔵院（保土ヶ谷区）の資料から、室町時代の横浜の姿を考察する。
武州金沢藩に関する基礎資料の分析（3／3年次）	武州金沢藩士萩原家文書中に含まれる藩庁文書を分析することにより、市域に本拠を有する唯一の藩（大名）である武州金沢藩（六浦藩・藩主米倉氏）の近世後期から明治初年の実態を検討する。	武州金沢藩士萩原則嘉の嘉永5年日記の解読を行い、前年度に解読・分析を行った嘉永4年日記とあわせて、嘉永年間における金沢陣屋・藩士家の年中行事の概要を明らかにする。
船釘の比較研究（2／3年次）	和船の建造に欠かせない船釘について、横浜市と他地域との差異、種類、製造、地域差などの視点から比較研究を実施する。	横浜市内の船釘について収集調査を実施するほか、他地域の事例について文献調査などを実施する。併せて比較のため他地域の現地調査も実施する。

市域の民俗調査（2／3年次）	市民協働事業の一環として、市民とともに、市域の民俗調査を実施する。	「民俗の見方、調べ方」講座の受講生から市民調査員（仮称）を組織し、市内のフィールドワークを実施する。
横浜の歴史をテーマにした調査研究：企画展に生かすための調査研究		
ムラに生きる人々	各時代の人々の生活・信仰などの諸相を明らかにする。	企画展に関する準備を行う。
人と物の流れ	陸の道・海の道を通してもたらされる文化の伝播などを明らかにする。	企画展に関する準備を行う。
変わる横浜の姿	開発による景観の変化や人々の生活の変遷などを明らかにする。	企画展に関する準備を行う。

(2) 調査報告書の作成・刊行

調査研究で蓄積した基礎データ等の公開を行う。(800部)

3 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

(1) 展示物やビデオ機器類の保守点検、修繕等の管理を行う。

(2) 常設展示室の構造と特色を生かして、来館者の満足度を高めるための事業を行う。**（観覧者見込数 84,600人）**

(ア) 収蔵資料ミニ展示：スタディサロンに、定期的に収蔵資料の展示紹介コーナーを開設し、学芸員が解説を行う。

(イ) 学芸員による常設展示解説：毎月最終土曜日に各時代の担当学芸員による展示解説を行う。

(ウ) 教員の要望により、エドゥケーターが展示を教材とした授業例を実演する。

(エ) 展示解説員の配置にむけての検討を進める。

(3) 開館以降の資料収集などの成果を活用し、来館者の多様な要望に応えられるようリニューアルにむけての計画の検討を進める。

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

開港150周年、都筑・青葉区制15周年、横浜市歴史博物館開館15周年の節目の年度を迎え、記念企画展・特別展を実施するとともに、開港ゆかりの地での歴史散歩、関連シンポジウム、遺跡公園での現代アート展、横浜Fマリノスとの協働展示など、この年を市民とともに祝う従来にない事業を企画・展開します。

(1) 企画展・特別展

事業名称（仮称）／開催期間	観覧者見込数	目的・意図、実施内容
横浜開港150周年記念特別展 「海賊一室町・戦国時代の東京湾と横浜ー」 平成21年4月 4日（土） ～5月10日（日）	15,000人	室町時代の神奈川湊から伊豆七島に至る海上支配や、海賊衆による海戦の資料を展示し、中世の横浜を海からの視点で紹介する。 ○小学生をターゲットにしたパネル併設 ○講演会・フロアレクチャーの開催 ○図録、子ども向け解説シートの作成 ○関連事業（スタンプラリー他）

<p>横浜開港150周年記念企画展 「絵地図・浮世絵・写真にみる幕末・近代の横浜 Part I II」 Part I 平成21年5月23日(土) ～7月5日(日) Part II 平成20年7月18日(土) ～8月30日(日)</p>	25,000人	<p>博物館や開港資料館、都市発展記念館と連携し、各館が所蔵する嘉永年間から明治10年代までの開港期前後の絵地図・浮世絵・写真等から開港当時の横浜の姿を紹介する。 ○研究講座・フロアレクチャーの開催 ○図録、子ども向け解説シートの作成 ○関連事業</p>
<p>横浜開港150周年記念 都筑・青葉区制15周年記念 資料展 「博物館収蔵 都筑区・青葉区関係資料」 平成21年9月12日(土) ～10月4日(日)</p>	3,500人	<p>開港場横浜を支えた横浜北部地域の役割とその歴史について博物館収蔵資料で紹介する。 ○フロアレクチャーの開催 ○関連事業</p>
<p>横浜開港150周年記念 都筑・青葉区制15周年記念 特別展 「陸の道と海の道の交差点-江戸時代の神奈川-」 平成21年10月17日(土) ～11月29日(日)</p>	7,000人	<p>江戸時代の横浜市域における海陸交通の交差点であった東海道神奈川宿と神奈川湊の状況と、その後背地との政治・経済・文化の関係を紹介する。 ○研究講座・フロアレクチャー・関連シンポジウム等開催 ○図録作成</p>
<p>「横浜市指定の考古資料」展 平成21年12月12日(土) ～平成22年1月11日(月)</p>	3,200人	<p>市域の文化財を身近なものとして感じてもらうことを目的として、横浜市指定文化財の考古資料と発掘された横浜市域の遺跡の紹介を、埋蔵文化財センターと共に行う。同時に中学校社会科作品展を開催する。無料。 ○研究講座の開催 ○関連事業</p>
<p>横浜市歴史博物館開館15周年 記念特別展 「古代の地域社会と役所」 平成22年1月23日(土) ～3月22日(月)</p>	6,300人	<p>古代における地域社会の支配の拠点となった役所・郡家のもつ様々な機能を紹介する。 ○講演会・フロアレクチャーの開催 ○図録の作成 ○関連事業</p>

(2) 講座・講演会

項目	参加者見込数	目的・意図
----	--------	-------

古文書解読教室	各回 40 人	初心者を対象に、専門職員を講師として古文書の解読講座を開催する。連続 10 回。 平成 21 年 10 月 2 日（金）～12 月 4 日（金）
古文書解読教室（上級編）	各回 45 人	上級者を対象に、専門職員を講師として古文書の解読講座を開催する。連続 5 回。 平成 22 年 1 月 14 日（木）～2 月 11 日（木）
古代史講読講座	各回 45 人	専門職員を講師として古代史の基礎文献を読み解く。連続 5 回。
中世史講読講座	各回 45 人	専門職員を講師として中世史の基礎文献を読み解く。連続 5 回。 平成 22 年 1 月 14 日（木）～2 月 11 日（木）
開港 150 周年記念シンポジウム	170 人	郷土史団体連絡協議会・開港資料館との共催で「神奈川湊から横浜港へ」をテーマにシンポジウムを開催する。また、併せて連絡協議会に関するパネル展を開催する。 シンポジウム：平成 21 年 11 月 1 日（土）
開館記念特別講演会	170 人	博物館の開館 15 周年を記念して特別講演会を行う。
土器づくり教室	各回 20 人	港北ニュータウン地域内発見の縄文時代の土器をモデルに複製を試みる。市民協働の一環として、専門職員と横浜縄文土器づくりの会とが指導にあたる。連続 4 回。 平成 22 年 2 月 14 日（日）～3 月 20 日（土） ○関連事業 体験学習室展示

（3）普及体験

項目	参加者見込数	目的・意図
体験学習（日常）	60,000 人	体験学習室で、銅鐸・火打ち石などに直接触れ、歴史を実感できるようにする。近隣小学校と連携して利用促進を図る。無料。
子供の居場所	5,000 人	体験学習室のプログラム（「江戸時代の旅」「ちょっと昔を探してみよう」）に合わせ、子ども向けのワークシートなどを用意し、放課後や週末の子どもの居場所を提供する。無料。
地域デイケアセンター等との協働	50 人	地域のお年寄りの方々に昔の道具に接してもらったり、体験をお話してもらうなど、回想法を取り入れた事業を施行し、地域福祉に貢献すると同時に、地域とのふれあいの場の提供を目指す。
体験学習（催事）	1,000 人	野外施設の工房・体験広場等で、小学生の親子を中心に各種の体験をとおして、遊びながら歴史に触れる教室を開催する。勾玉作り、土偶作り、紙すき、ぞうり編み他を実施。21日42回開催。

土器野焼き見学	300 人	野外施設の体験広場で土器の野焼きを行い、見学者に野焼きの迫力を感じてもらう。年4回。無料。
竪穴住居に泊まろう	30 人	遺跡公園の復元住居に家族単位で泊まる体験。 平成21年9月19日(土)～20日(日)
デリバリーパック		火起し道具や回想法グッズなどを貸し出す。 有料による貸出を検討する。
夏休み博物館たんけん隊	各回20人	夏休み期間中、児童生徒を対象に、普段見ることのできない博物館の裏側や見どころの解説などを行い、博物館への関心を深める。8/2・9・16・23日、8回開催。無料。
土器づくり教室作品展	1,000人	体験学習室を利用して、作品展を開催するとともに、土器づくりの方法を展示する。平成21年3月末～4月上旬に開催。無料。
ふるさと横浜探検	各回30～35人	横浜市内外の史跡・博物館を巡り、専門職員や外部講師が解説にあたる。年間7回(このうち3回はガイドバスツアー)。 今年度も、開港150周年企画として宿泊ツアーを実施する。



歴史講座



体験学習

(4) 集客イベント等(「開港150周年記念事業」関連は再掲)

項目	内容
ラストサタデープログラム	学芸員による常設展示解説 3(2)記載のとおり 新たな顧客層獲得とリピート率向上のために、4～6月の最終土曜日や連休に小学生向け体験ミニイベントを開催する。 新たな集客対策のためのイベント事業を検討・企画する。
収蔵資料ミニ展示	博物館で収集・保管した資料で、公開する機会の無かったものや少なかったものを常設展示室のスタディサロンで展示する。あわせて資料解説も行う。3(2)記載のとおり
エントランスホールコンサートの実施	歴史博物館をより身近なものとして利用していただくため、博物館エントランスを会場にコンサートを開催する。年2回。無料。 夏季は横浜開港150周年記念のコンサートとする。
博物館感謝デー	1月31日の開館を記念して、各種行事を実施する。 今年度は15周年を意識したものに。

開港150周年記念 開港150周年記念フェスタ	全館無料とし、各種催し物を行う。 同時に大塚・歳勝土遺跡公園では野焼きを行う。 平成21年6月6日(土)・7日(日)
4区のチェンジ!大変貌展—横浜市編入70年の歴史	博物館+北部4図書館合同郷土展 「横浜市北部地域の150周年」 都筑区・青葉区・港北区・緑区の各図書館と博物館の協働で、資料の巡回展示を行う。 平成21年7月9日(木)～26日(日)
開港150周年記念 エントランスホールコンサート	～横浜開港150周年を記念して～ ピアノ・ソプラノ・フルートによるコンサート 平成21年7月4日(土)
開港150周年記念 横浜Fマリノス展(仮称)	横浜Fマリノスとの協働でミニ展示を行う。 平成21年8月15日(土)～31日(月)
都筑アートプロジェクト2009 「ニュータウン・ピクニック—遺跡を巡るアート—」	大塚・歳勝土遺跡公園内にある都筑民家園と共催で、遺跡公園に新進気鋭の現代アート作家の作品を野外展示し、原始と現代のコラボを楽しんでもらう。アートフリーマーケットも行う。 平成21年10月7日(水)～11月7日(土)



学校との連携



イベント
(エントランスホールコンサート)

(5) 市民協働

項目	内容
ボランティアの活用	市民ボランティアにより、博物館野外施設の解説ガイドを行うとともに生涯学習支援を行う。第6期生 60人(1期2年間) 学校社会科見学時の体験コーナー、ラストサタデープログラム等の集客イベントでの活動を行う。
地域デイケアセンター等との協働	4(3)記載のとおり。
出張事業	学校等の要望に応じて行う土器づくり指導は、市民団体との協働で実施する。
古文書解説	横浜古文書を読む会等と協働して、古文書を読み解き、刊行事業等につなげていく。

(6) 学校連携

項 目	内 容
博物館利用の促進	エドゥケーターを中心に、児童生徒向けテキスト・教員向けテキストを活用し、学校の博物館利用を促進する。また、「学校の博物館利用研究会」を開催し、学校との連携の強化を図る。
	学校団体受付拡充のため、4・5月の月曜開館を実施する。 学校利用件数見込 500校
	各施設の学校利用促進のためのIT活用等の検討を行う。
出張授業	吉田新田などの社会科授業、土器づくり指導や体験学習などを学校等の要望に応じて行う。
教員研修	教育委員会と連携し、展示を活用した学習法や体験学習カリキュラムの研修(8/1、60人)また、「吉田新田」など特定テーマに関する研修を実施。

(7) 広報・広聴

項 目	内 容
広報	市営地下鉄駅構内の広報案内看板による広報(6駅) 市営地下鉄の車内放送による広報 インターネットによる広報(ホームページ・メールマガジン発信) 一般新聞・雑誌等への広告掲載による広報 FM放送への話題提供 区民まつり、センター北まつりへの出店参加による広報(都筑区) 他館と連携した広報活動の実施
地域文化財情報の発信	区や学校等と連携し、講座・講演会の開催・広報印刷物発行等を行う。
市民ニーズの把握	アンケートやモニタリングを行い、顧客満足度と市民ニーズを把握し、評価・改善のためのデータを作成する。

(8) 出版

項 目	内 容
リーフレット類作成	歴史博物館案内パンフレットを作成する。 歴史博物館催し物案内を作成する。(年2回)
出版物発行	「横浜市歴史博物館ニュース」(発行20,000部、年2回) 「横浜市歴史博物館資料目録」第18集(発行700部) 「紀要」第14号(発行800部) 完売して在庫の無い展覧会図録の増刷を検討する。

(9) 実習生・研修生の受入

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。夏期の集中型と1年を通じた分散型の2回に分け実習を行う。約20人。

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

ホームページをリニューアルするとともに、メールマガジンでの広報をより充実させ、博物館の存在をより身近なものにしていきます。

（1）収蔵資料等データ入力

館蔵品、寄贈・寄託資料及び市域指定文化財のデータベース化（2,000点）・インターネット公開を促進する。

（2）映像資料の公開

常設展示室映像コーナーで、横浜の歴史や文化財に関するビデオを公開する。

ビデオの学校・地域への貸出し方法を検討する。

（3）文化財情報システムの運用

インターネット等による文化財情報の管理・発信や、グループウェアに関わる機器類の保守を行う。

インターネットを利用した情報提供を行う。**アクセス見込み件数：72,500件**

（4）ホームページを利用した市民ニーズの把握

ホームページ上で、施設に対する市民のニーズを把握する。

6 歴史博物館施設維持事業（寄附行為第4条第7号）

横浜市歴史博物館及び野外施設の施設維持および長寿命化を行います。

（1）横浜市歴史博物館及び野外の施設維持

（2）研修室・講堂、エントランスホール等の貸出及び稼働率の向上

（3）広告料収入等の確保

Ⅵ 開港資料館事業（事業予算 204,918千円）

〔 運営方針 〕

横浜開港資料館は、開港期を中心に横浜の歴史に関する資料を収集・整理・保存し、閲覧や展示、講座・講演会、出版などを通じて市民に広く公開してきました。

今年度は横浜開港150周年を迎え、当館が果たす役割は一層大きなものになっています。今年度の各種事業は、ほとんどを「開港150周年記念事業」と位置づけ、各種事業を展開するほか、横浜市および市関係団体が実施する開港150周年記念事業にも協力していくことで、横浜開港資料館の存在意義をアピールしていきます。

一方、市民協働事業や学校連携事業についても開港150周年後の活動の中心の1つと位置づけ、力を注いでいきます。横浜郷土史団体連絡協議会と開港150周年事業としてシンポジウムや講演会などの事業を協働して実施し、学校対象のホームページ開設なども行っていきます。

なお、平成22年1月から3月までは横浜市により開港資料館全館の空調機器改修工事が実施され、その期間が休館となりますので、展示・閲覧事業等は休止となりますが、調査研究・普及啓発・市民協働等の事業は継続してまいります。

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

今年度も「近代横浜の記憶装置」としての役割を一層強化するため、寄贈・寄託の受け入れを推進するとともに、購入や資料撮影によって所蔵資料の充実をはかってまいります。

（1）資料の収集

項 目	目的・意図
資料の寄贈・寄託	地域の貴重な歴史資料の流出・滅失・破損を防ぐため、市民に理解と協力を求めながら、積極的に歴史資料の寄贈や寄託を受け入れる。
資料購入	開港期を中心とする横浜の歴史に関する国内や海外の資料、展示用資料、新聞・雑誌、文献等を、広く目配りしながら購入する。
資料の撮影	原本で収集できない歴史資料を、マイクロフィルム撮影により収集する。また、原本の保存や閲覧利用の必要上、原本資料を撮影して複製本を作成する。

（2）資料の整理・公開

収集した歴史資料を、それぞれ資料群に応じた合理的な分類方法によって整理し、目録作成のうえ閲覧利用に供する。

閲覧室での一般利用に適さない絵図・古写真・地図など画像資料はデジタル化し、閲覧室やホームページ上でコンピュータ画面により公開する。

（3）資料の保管

資料は、常時温度20～23度、湿度50～60%を保った収蔵庫で保管する。

収蔵資料のうち、劣化或いは破損した資料は専門業者に委託して補修を行い、大型の器物等資料は、外部の資料倉庫を借り上げ保管する。また、通年、収蔵庫や展示室、閲覧室などにおける昆虫やカビ、塵芥などの測定調査を行い、資料環境の維持管理を図る。

（4）資料等の貸出

収蔵資料の普及と有効利用を図るため、類似施設等での展示会へ資料を貸し出す。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

当館が実施する公開事業(展示・講座・講演会・出版など)に必要な7つの調査研究事業を策定し、調査研究の成果を順次公表してまいります。

（1）調査研究

歴史資料の収集・整理や歴史・資料の研究、また閲覧や企画展示等公開普及事業など、資料館業務を遂行する上で必要な調査研究を行います。

項 目	目的・意図	今年度の成果目標
【開国・開港期の歴史】 ・幕末・明治期の史跡と古記録の研究 (4/5年次)	幕末～明治初年の横浜の歴史に関する資料や史跡の所在を明らかにする	①開港150周年に関する資料調査 ②平成21年度第1回企画展示での成果公表 ③新聞連載などでの成果の公表
【横浜近代政治史】 ・横浜市政史の研究 (4/5年次)	周辺地域の近代化、開港と横浜市政にかかわる資料を集積・研究し、展示・閲覧などに活用する。	①地域資料の調査と収集 ②平成21年度第3回企画展示の開催 ③市民講座・出版などでの成果公表
【横浜近代経済史】 ・明治・大正期の貿易・産業に関する研究 (4/5年次)	明治・大正期の貿易・産業に関する研究及び横浜の石油をはじめとするエネルギー産業に関する史料状況を明らかにする。	①阪田安雄文庫の整理、茂木商店関係資料の整理 ②横浜植木関係資料の整理から企画展示に結びつける ③盛り場伊勢佐木町かいわいの分析
【横浜近代文化史】 ・横浜の出版文化に関する研究(4/5年次)	横浜における文化史を出版物と教育史の視点で研究する。	①和装本(横浜本)の書誌データの集積 ②地方文書の調査を行い、学校関係資料を収集する
【横浜近代欧米関係史】 ・横浜外国人社会に関する研究(4/5年次)	横浜に在住した外国人社会の状況について総合的に研究する。	①居留外国人(B. H. チェンバレンやW. B. マーツ他)旧蔵資料の調査・整理と分析 ②横浜の居留地社会の変容に関する文書の調査・整理と分析 ③平成22年度実施予定の企画展準備
【横浜近代アジア関係史】 ・横浜華僑・華人に関する研究(4/5年次)	横浜の華僑史について総合的に研究する。	①華僑華人関係の資料の調査・整理と分析 ②華僑・華人のオーラルヒストリー ③中華街関係団体との連携
【歴史情報に関する研究】 ・明治・大正期の横浜関係情報に関する研究 (4/5年次)	横浜関係新聞などから、歴史情報を集積、整理し、閲覧室等での情報発信が適切に行われるようにする。	①明治・大正期発行の新聞、雑誌からの横浜関係記事の集積、整理 ②企画展示での成果公表
*歴史資料の保存に関する調査・研究は、資料の保存管理、修復事業の過程で実施する。		

(2) 調査研究の委託

内部の専門職員だけでは実施出来ない調査研究を、外部の専門家団体と協働して行い、資料の収集・整理、及び点字や出版・講座などの公開・普及などの業務に反映させる。

項 目	目的・意図	今年度の成果目標
横浜近世・近代史分野の調査研究	幕末・明治初年の貿易史と古記録に関する調査研究(4/5年次)	①幕末・明治初年の貿易関係史料の調査と分析 ②江戸期の古記録に関する調査(市内旧家が所蔵する文書を中心に)

	横浜市及び周辺郡部の調査研究及び 横浜の貿易・経済史の調査研究 (4/5年次)	①明治・大正期の古記録に関する調査 (市内旧家が所蔵する文書を中心に) ②大正～昭和期の盛り場についての調査 ③収集史料の解読と解析
横浜国際関係史分野の 調査研究	横浜の国際化と文化交流に関する調査 (2/3年次)	①関係資料の所在調査と資料分析 ②在住外国人のデータベース化と分析 ③オーラルヒストリーの実施

(3) 研究紀要の発行

「横浜開港資料館紀要」第28号を発行する。(発行1,250部)

3 常設展事業(寄附行為第4条第2号)

常設展事業では、一昨年に設置した新収資料コーナーの一層の充実をはかっていきます。このコーナーは、新たに発見された資料や寄贈・寄託を受け入れた資料を、いち早く市民に公開するために設置されましたが、今年度も数カ月ごとに展示を替えていく予定です。

(1) 常設展示室1「横浜開港への道」、及び常設展示室2「街は語る－開化ヨコハマ－」の2室の維持管理を行う。(観覧者見込数 55,000人)

(2) 展示等事業の広報

項目	内容
広報誌発行	館報「開港のひろば」第104～107号を発行する。 (発行部数：13,000～15,000部)
リーフレット類作成	開港資料館案内パンフレット・催し物案内を作成する。
その他広報	市営地下鉄駅構内の案内看板による広報(関内駅) みなとみらい線駅構内の案内看板による広報(日本大通り駅) 市営バスの車内放送による広報 インターネットによる広報 市内観光案内所、ホテルへのチラシ訪問配布 新聞・雑誌等への記事掲載による広報

(3) 新収資料コーナー

常設展示室に特別コーナーを設け、寄贈、寄託された資料、修復された資料等を随時紹介する。



新収資料コーナー



展示の様子

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

横浜開港150周年を迎えるにあたり、時宜にかなった展示3本を開催します。3本の展示を見れば、横浜開港と近代横浜の歩みがすべて分かるような企画展示の開催を目指します。また新聞社との共催講演会と講座も積極的に開催していきます。

(1) 企画展の実施

企画展名称（仮称）／開催期間	観覧者見込数	目的・意図
開港150周年記念② 「港都横浜の誕生」展 平成21年4月22日（水） ～7月26日（日）	22,500人	横浜村は通商条約の締結・開港により、一夜にして日本近代化に大きな影響を与える町となった。国際港都横浜の開港から明治時代初年までの歴史を横浜開港資料館が調査・収集した新発見資料を豊富にを使って紹介する。
開港150周年記念③ 「ハマの中華街150年」展 平成21年 7月29日（水） ～10月25日（日）	16,500人	開港とともにやってきた中国人は、横浜の貿易活動を支える上で重要な役割を果たし、中華街を築いた。震災・戦災を乗り越えて今も多くの人びとを引きつける中華街の歩みを紹介する。
開港150周年記念④ 「近代を迎えた横浜の村々」展 平成21年10月28日（水） ～平成21年12月27日（日）	12,000人	開港期から明治初年、開港場横浜が注目されるが、現在の横浜市域にあたる地域でも近代化の波が押し寄せた。明治に入り地租改正、徴兵制度、学制公布、交通革命など激しく動く近代化の波を人びとがどの様に受け止めたのかを紹介する。
企画展関連事業		企画展開催にあわせ、記念講演会・講座を開催する。また、「ハマの中華街150年」展の図録を刊行する。
平成22年度以降開催予定の企画展関連調査		企画展の準備のため、収蔵資料や他施設の資料について調査する。

(2) 講座・講演会ほか（「開港150周年記念事業」関連は再掲）

項目	参加者見込数	目的・意図
企画展関連講演会	400人	読売新聞との共催で「港都横浜の誕生」展に関連したテーマで開催する。 会場：横浜開港記念会館
企画展関連講座	80人	読売新聞との共催で「港都横浜の誕生」展に関連したテーマで開催する。 連続3回 会場：横浜開港資料館講堂
企画展関連シンポジウム		「ハマの中華街150年」展に関連したテーマで開催する。会場未定。
開港150周年記念講演会・シンポジウム	180人	郷土史団体連絡協議会・歴史博物館との共催で「神奈川湊から横浜港へ」をテーマに講演会・シンポジウムを開催する。また、併せてパネル展を開催する。

	500人	横浜郷土史団体連絡協議会・はまぎん産業文化振興財団共催で講演会を実施する。 会場：はまぎんホール
市民団体との共催講座	各80人	横浜市郷土史団体連絡協議会との共催で、地域に出向き連続講座を開催する。 連続5回、2期
体験資料講座	50人	所蔵資料の複製など実際に手にとってみる体験なども交えながら、その資料を教材とした講座を開催する。 連続5回 会場：横浜開港資料館講堂
吹奏楽と講演		幕末の横浜で英国駐屯軍などが演奏した音楽を神奈川フィルハーモニーの演奏で、解説とともに紹介する。 平成21年6月7日（日）

(3) 出版物の作成

資料収集や整理、調査研究、企画展など資料館事業の成果を広く市民に紹介するため、各種出版物を作成し、廉価で頒布する。また、需要の多い在庫切れ出版物を増刷する。

<出版予定>

広報誌 横浜開港資料館報「開港のひろば」第104～107号（発行部数：13,000～15,000部）

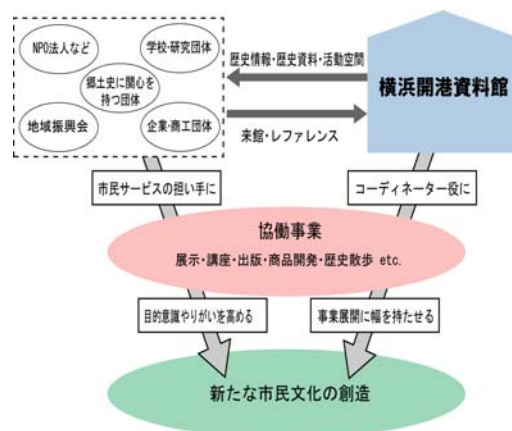
(4) 市民協働・学校連携

当館は、市民と共に歩む資料館を目指し、今年度も横浜郷土史団体連絡協議会やはまぎん産業文化振興財団、その他機関と協働の講演会・シンポジウムを開催します。

(ア) 横浜市郷土史団体連絡協議会の活動を指導・支援する。

郷土史に関心を持つ団体が情報交換し、広範な活動ができるように、当館が中心となり設立した横浜市郷土史団体連絡協議会（現在、市内18区56団体）とともに、協働事業（講座・シンポジウム・共同展示・共同出版など）を展開していく。

(イ) 地域振興会（横浜中華街発展会協同組合など）、学校・研究団体、NPO法人、企業・商工団体などと協働事業を行う。



市民との協働事業（イメージ図）

(5) 外部組織への資料提供および助言・監修

(ア) 新聞連載

新聞連載を行い、当館および当館蔵資料を広く周知し、研究成果を公表する。

(イ) 助言・監修

公共施設や企業へ資料を提供するとともにその作成物について、助言・監修を行う。

(6) 資料館館務実習

学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。受入数：8人程度

(7) 各種情報のホームページ等による発信

(ア) 画像資料等のデジタル化等

古写真・絵葉書を中心とした画像資料のデジタル化、また収蔵資料のデータベース作成を進める。

(イ) ホームページによる情報提供

ホームページの内容・体裁の改善をすすめ、開館時間やアクセス、企画展示や講座、出版など最新の資料館情報を提供する。

(ウ) ホームページによる市民ニーズの把握

ホームページ上に寄せられた市民からの意見や要望を、事業や企画の改善に反映させる。

アクセス見込件数 88,000件

(エ) メールマガジンによる情報発信

企画展示、講座などの催し物情報を希望者に電子メールで発信する。

(8) 複製フィルムの貸出

市民や企業（出版社、テレビ局など）の求めに応じ所蔵資料の複製を有料で提供する。提供の方法は、複製フィルムをデジタル化しCD-ROMで提供する。これにより資料情報の発信を促進するとともに収益の増加を図る。

利用見込件数・点数 600件・2,500点

(9) 資料閲覧室の運営

閲覧室において、収蔵資料を一般閲覧に供し、専門職員によるレファレンス、及び資料のコピーサービスを行う。

閲覧室利用見込件数 2,800件

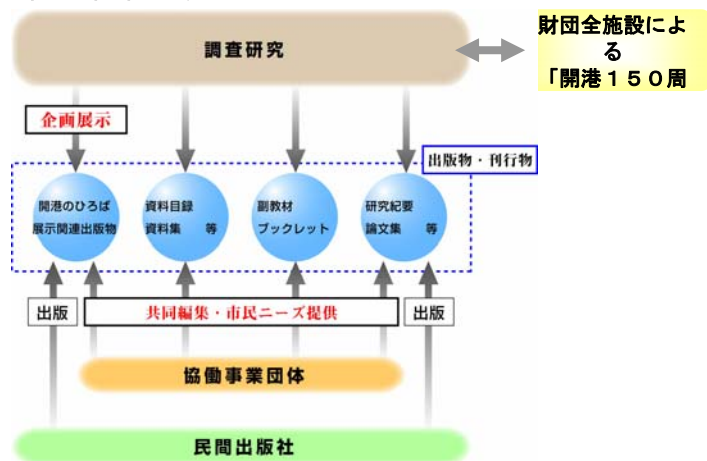
5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するための情報システム機器類の運用・保守を行います。

6 開港資料館施設維持事業（寄附行為第4条第7項）

横浜開港資料館の施設維持および長寿命化を行います。

- (1) 横浜開港資料館の施設維持
- (2) 施設の有料貸出に向けての環境整備
- (3) 広告料収入等の確保



開港資料館事業の概念図

Ⅶ 都市発展記念館事業（事業予算 86,766千円）

[運営方針]

横浜都市発展記念館は、現在の横浜市の骨格が形成された昭和戦前期を中心に、都市横浜のあゆみを「都市形成の歴史」「市民生活の変遷」「横浜が育んだ文化」の三つのテーマに即して解明し、その成果を展示や出版・講座などの事業を通して紹介する施設です。

今年度は横浜開港150周年記念事業として、横浜の都市形成の歴史をより深く理解できるよう、企画展示「横浜建築家列伝」「横浜の近代遺跡」を実施するほか、大倉精神文化研究所や横浜市緑の協会との共催事業で、近代建築をテーマとした講座やパネル展示を開催します。またユーラシア文化館との共催で、中庭を利用した市民参加型のイベントも実施します。

ホームページを用いた資料公開としては、前年度に引き続いて絵葉書の公開を実施し、新規に古写真の公開も行います。また戦後の懐かしい横浜の映像を記録したニュース映画「神奈川ニュース」の普及版DVDを作成し、一般向けに販売を開始します。

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

「都市形成」「市民の暮らし」「横浜の文化」に関する資料を収集するとともに、ホームページを利用した画像資料の公開を進める。

- (1) 資料の収集と保管

項目	目的・内容等
寄贈・寄託	都市形成、市民の暮らし、横浜の文化に関する資料を流出・滅失・破損から守るため、積極的に寄贈・寄託を受ける。
購入	都市形成、市民の暮らし、横浜の文化に関する資料を収集する。
複製による収集	原資料で収集できないものをフィルム撮影等により収集する。
修繕	傷みの激しい資料は専門業者に委託して修復を行う。

保管	資料は温湿度を一定に保った収蔵庫で保管する。収蔵庫に収まらない器物等の大型資料は、外部倉庫を賃借して保管する。所蔵資料の情報はデータベースに入力し管理する。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査を定期的に行う。

(2) 画像資料の整理・公開

デジタル化の終了した画像資料のなかから、絵葉書の画像データをホームページ上で公開する。加えて今年度は古写真の公開も新規に開始する。

(3) 複製資料の提供

複製資料（所蔵資料の画像データ）を提供し、出版・放送・展示や市民の学習など、各種用途での利用に応じる。今年度より映像資料（一部）の提供も開始する。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

「都市形成」「市民のくらし」「横浜の文化」に関する調査研究をおこない、その成果を企画展示や紀要などで公開する。

(1) 調査研究

項目	目的・意図	今年度の成果目標
近代遺跡調査（4／4年次）	市内で発見される近代遺構の調査および出土遺物の採集・研究を行い、近代遺跡の観点から横浜の都市形成史を明らかにする。	本年度は他機関所蔵のジェラル瓦の調査を実施する。また「ストライプ土管」について製造元での調査を行う。
横浜建築博覧データベースの作成（3／3年次）	関内・山手地区に建設された構造物の記録を、明治・大正・昭和の各時代について集積し、「デジタルマップ」の基礎情報を整理する。	最終年度となる本年度は、横浜市緑の協会と連携して、山手地区を対象を絞った調査を実施し、成果を山手西洋館でのパネル展として公開する。
昭和戦前期都市横浜における生活・文化史の調査	昭和戦前期の横浜の生活の実態・文化の諸相を明らかにする。	1920～1930年代の横浜におけるモダニズムに関する研究文献・史料・原資料の調査をおこなう。
昭和期の写真・映像に関する調査（2／3年次）	昭和期の写真・映像の整理、デジタル画像への変換、および分析を行う。	引き続き写真・映像資料の整理、デジタル化を進め、本年度は一部、公開を開始する。

(2) 紀要の発行

調査研究成果をまとめて、『横浜都市発展記念館紀要』第6号を編集・発行する。

（発行予定1,000部）

3 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

(1) 常設展示の運営と展示設備の維持管理を行う（**観覧者見込数 年間19,000人**）。

(2) 展示内容の普及をはかる（「4 企画普及事業」参照）。

- (3) 「都市形成」や「市民の暮らし」ゾーンの展示替えを行う（実物展示資料の入れ替え、展示パネルの補充など）。
- (4) 新収資料や出土遺物などを随時、「掘り出し物」コーナーで紹介する。
- (5) 「旧市外電話局」第一玄関の積極的な公開・活用を行う。



掘り出し物コーナー

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

開港 150 周年記念事業として、横浜の都市形成の歴史をより深く理解するための企画展示や講座を実施する。また職業体験プログラムの作成など、新規の学校連携事業にも取り組みます。

(1) 企画展示

展示名称（仮称）／開催期間	観覧者見込数	目的・内容
横浜開港 150 周年記念 「横浜建築家列伝」展 平成 21 年 4 月 25 日（土） ～ 8 月 30 日（日）	6,000 人	開港から戦後までの都市と建築の変遷を、各時代の代表的な建築家とその作品群を取り上げながら振り返る。 ○図録の作成 ○展示解説
横浜開港 150 周年記念 「横浜の近代遺跡」展 平成 22 年 1 月 23 日（土） ～ 5 月 9 日（日）	3,500 人	埋蔵文化財センター・三殿台考古館との共催。新たに発見された地下遺構とその出土遺物を紹介するとともに、煉瓦やジェラール瓦について近年の調査結果を公開する。 ○図録の作成 ○展示解説
平成 22 年度以降開催予定の 企画展調査		平成 22 年度企画展開催のために資料調査などを行う。

(2) 講座・講演会・歴史散歩等

項目	参加者見込数	目的・意図
夏休み子どもウォーク	30 人	親子を対象にした夏休みの歴史散歩を実施する。
大倉山講演会「大倉山記念館の建築様式と思想」	80 人	大倉精神文化研究所との共催事業。市指定文化財の大倉山記念館（旧大倉精神文化研究所本館）の建物をテーマにした全 3 回の連続講演会。
ガイド養成講座	50 人	横浜観光コンベンションビューローや NPO 法人横浜シティガイド協会と協力し、当館の調査研究員による解説と組み合わせたガイド・ツアーを行い、ガイドを養成するための講座を実施する。

(3) 出版事業

項 目	目的・意図
ブックレットの刊行準備	横浜の都市形成の歴史、横浜の市民生活・文化を、豊富な図版とともに市民にわかりやすく伝えるブックレットシリーズについて平成22年度の刊行に向けて準備を進める。
「神奈川ニュース」DVD作成	昭和20年代から40年代にかけてのニュース映像の普及版DVDを順次、制作・販売する。

(4) 学校連携事業

項 目	目的・意図
学校連携事業	企画展示ごとに、財団エドゥケーターと協議して学校側のニーズを把握し、企画に反映させるとともに、教員向けの展示ガイドを作成して広報を行う。
展示解説シート、クイズシートの作成	グループでの来館時に活用できる常設展示の解説シート、クイズシートを作成する。
教員向け講座の実施	教員向けに常設展示の解説講座を実施して、施設を利用するうえでのポイントを説明し、資料活用を呼びかける。
職業体験プログラムの検討	中学生の職業体験のためのプログラムを検討する。



夏休み子どもウォーク



記録映像「神奈川ニュース」

(5) 開港150周年記念事業(再掲)

項 目	内 容
中庭でのイベント URANIWA Square 開催	当館中庭を会場に、地元事業者・ユーラシア文化館との協働で、横浜開港150周年記念イベントを開催する。
「華やかなりし時 山手の洋館パネル展」	横浜市緑の協会との共催事業。企画展「横浜建築家列伝」の関連企画として、山手西洋館の歴史をテーマにしたパネル展示を山手234番館にて8月下旬に開催する。
「開港記念会館を知る講座」	中区・横浜開港資料館との共催事業。開港記念会館の歴史をテーマにした連続講座と、ジャックサポーターズガイドによる建物見学。6月実施。全3回。

(6) 広報活動および調査

項 目	内 容
広報誌（館報）発行	『ハマ発Newsletter』の編集・発行 (第12～13号、各10,000部)
印刷物作成	企画展示案内（ポスター・チラシ）、「催し物案内」（リーフレット）の作成
ホームページの運営	インターネットによる最新情報の案内、展示内容・資料などの解説
メールニュースの配信	希望者に最新情報の案内を電子メールで配信する。読者から「思い出話」を募集してニュース内で発表するなど、双方向のコミュニケーションを図って、リピーターの確保に努める。
「ハマ発ブログ」の運営	当館職員の日常的な活動（展示準備や調査研究など）を、ブログ形式でタイムリーに発信し、館に親しみを持ってもらう。
マスコミ対応	・放送（テレビ、ラジオ等）、新聞・雑誌（タウン誌などを含む）の取材対応と情報の提供 ・フィルム・コミッションへの協力 ・広告の掲出（新聞・雑誌、地下鉄車内など）
外部機関との提携	・鉄道駅構内へのポスター掲出、チラシ等配置 ・観光案内所、ホテル、旅行代理店などへの印刷物配布 ・観光・地域振興等関連団体への参加 ・スタンプラリー等による集客 横浜フランス月間2009（6/1～30）参加／横浜グランドミュージアムH21年度プロモーション参加（横浜コンベンションビュローロー主催）／ミュージアム・クイズラリー参加（夏季、神奈川県博主催）／JRグスティネーション・キャンペーン参加
市民ニーズの把握	実施事業ごとにアンケート調査を行い、利用者の満足度と市民ニーズの把握を行う。

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

(1) 収蔵資料等データ入力

収蔵品、寄贈・寄託資料のデータベース化を図る。

(2) ホームページを利用した資料公開

ホームページ上で、写真・絵葉書などの画像資料を公開する。

ホームページアクセス件数見込 30,000件

6 都市発展記念館施設維持事業（寄附行為第4条第7号）

横浜都市発展記念館の施設維持および長寿命化を行います。

(1) 横浜開港資料館の施設維持

(2) 施設の有料貸出に向けての環境整備

(3) 広告料収入等の確保

Ⅷ ユーラシア文化館事業（事業予算 91,675千円）

〔 運営方針 〕

横浜ユーラシア文化館は、国内外の関連機関と連携し、ユーラシア諸地域の人々や文化の交流に関する調査研究を行い、その成果を展示、出版、講演会、イベントなどを通して公開する施設です。

今年度は、開港150周年にあたる21年度の企画展示「東西交流の証」を開催し、都市発展記念館との共催で、中庭イベントなども実施します。さらに、埋蔵文化財センターとの連携事業として、ユーラシアを代表する楽器「口琴」のコンサートと参加型イベントを開催します。アイヌなどアジアの曲を演奏する他、「2009日唄修交140周年」にちなんで、オーストリアから口琴演奏家を招き、市民演奏家との共演による日本初公開の楽曲を紹介します。

継続して行う事業としては、インターネット蔵書検索OPACの冊数を増やすとともに、ホームページで多くの画像に親しんでもらえるよう収蔵資料のデータベースを拡充し、市民への公開、サービスの向上に努めていきます。

1 資料収集保管事業（寄附行為第4条第1号）

（1）資料収集・保存

項目	目的・意図
資料の寄贈・寄託	市民に理解と協力を求め、資料を流出・滅失・破損から守る。
資料購入	常設展で活用しうる資料や、調査研究に資する資料を収集する。
資料の保管	資料を館内外の収蔵庫で適切に保管する。
資料修繕	文献・資料の修復を行う。
環境調査	収蔵庫など館内の環境調査を行い、必要に応じて収蔵資料の燻蒸等の対策をとる。

（2）資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討し、整理を行う。

（3）文献資料の整理

所蔵資料の一方の柱である文献資料の公開に向け、特に貴重な元大英博物館東洋部長バジル・グレイ旧蔵書と漢籍から優先的に整理・分類を行う。整理が終わったものから順次公開していく。

項目	目的・意図
バジル・グレイ旧蔵書・洋図書	蔵書の分類を行う。
和図書	書誌データを入力し、データベースを構築する。インターネットでの蔵書検索（OPAC公開）を拡充する。

2 調査研究事業（寄附行為第4条第1号）

日本最大級のコレクションである当館所蔵の古代メソポタミア資料（楔形文字粘土板文書）は、世界的にも貴重であるため、今年度は研究成果の公開を積極的に行う。

(1) 調査研究

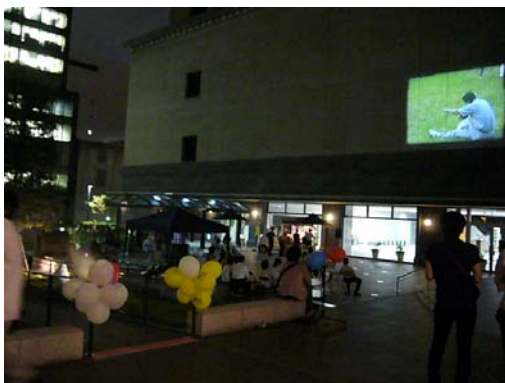
項目	目的・意図	今年度の成果目標
「ユーラシアの造形」 関連資料の研究 (4/5年次)	関連機関との共同で、収蔵資料、及び 関連資料の調査研究を行う。	館内外のイスラーム陶器資料の調査 研究を行う。
メソポタミア楔形文字 粘土板文書の研究 (7 /8年次)	当館が所蔵する楔形文字粘土板文書の 調査研究を行い、展示や出版物、講座 などを通して市民や子どもたちに楔形 文字粘土板文書が使われたシュメール 世界に対する理解を深めてもらう。 ・中央大学大学院と共同研究(継続)	新規に、ホームページで楔形文字粘土 板文書の画像と和訳を紹介。あわせ て、当館所蔵の書籍から粘土板文書や シュメールに関する文献資料、関連施 設の資料を調査する。
横浜市内にあるユーラ シア関連資料の調査 (3/3年次)	市民が保管するユーラシア各地の資料 を調査し、展示や広報誌に反映させる。	市内にあるユーラシア関連資料を記 録する。また、市民から寄贈を受けた 資料についても調査を進める。
「東西交流の証」開催 準備調査(2/2年次)	平成21年度企画展「東西交流の証」 開催のための資料調査を行う。	展示で成果を公開する。

(2) 資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討し、整理を行う。

3 常設展事業 (寄附行為第4条第2号)

- (1) 横浜ユーラシア文化館の常設展示室の維持管理を行う。(観覧者見込数 18,000人)
- (2) 館報「News from EurAsia 横浜ユーラシア文化館ニュース」第11・12号を発行する。
(各10,000部)
- (3) ニュース性、企画展示とのつながり、関連機関との連携、市の施策を考慮に入れた展示替えを行
う。
- (4) 学芸員による解説(和英)を行う。実施は予約制とし、市民・利用者の希望に沿った解説内容と
なるよう努める。
- (5) 展示室内・ライブラリーでの利用者・学芸員双方向コミュニケーションを図る。
- (6) クイズラリーやスケッチなど常設展示室でのミニイベントを企画する。



URANIWA-Labo 中庭での映像上映



イベント「ヒエログリフを書いてみよう」

4 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

ユーラシア文化館ならではの広い視野で、開港 150 周年記念事業を実施する。

（1）企画展

企画展名称（仮称）／開催期間	観覧者見込数	目的・意図
開港 150 周年記念事業 「東西交流の証」展 平成 21 年 9 月 19 日（土） ～平成 22 年 1 月 11 日（月）	6,000 人	ユーラシア世界の交易を発展させた海上交易に着目し、東西の陶器を中心に、古代から大航海時代までの交易の歴史を眺望する。 ○コンサートの開催 ○図録の作成 ○ギャラリートーク
企画展関連ギャラリートーク	各回 20 人	企画展に対する興味と理解を深めることを目的として、展示室内で作品解説を行う。土日および予約日に実施。無料。
平成 22 年度以降開催予定の 企画展調査		平成 22 年度企画展開催のために資料調査などを行う。

（2）普及啓発

項目	参加者見込数	目的・意図
常設展関連ギャラリートーク	各回 20 名	常設展に対する興味と理解を深めることを目的として、展示室内で作品解説を行う。予約日に実施。無料
講師派遣		文化団体・サークル等への講演会に学芸員を派遣する。 新規に英語での講演も実施する。
解説シート		常設展示の解説シートを作成し、興味と理解を深める（和英）。
クイズシート		常設展・企画展資料をテーマにした子ども向けクイズを作成し、資料に対する興味を深める。

（3）開港 150 周年記念事業（再掲）

財団施設間および国内外関連機関との連携を強化し、市民とも協働して開港 150 周年を祝うイベントを実施する。

項目	内容
中庭でのイベント URANIWA Square 開催	当館中庭を会場に、都市発展記念館・地元事業者との協働で、横浜開港 150 周年記念イベントを開催する。
コンサート「音のひろがり：ユーラシア東西交流」（仮称）と参加型イベント	東西交流というテーマに相応しいユーラシアを代表する楽器「口琴」を紹介（埋蔵文化財センターとの連携）。アイヌなどアジアの曲を演奏する他、オーストリア演奏家と市民演奏家の初共演（市民協働）により、日本発公開の口琴協奏曲を紹介する。 参加型イベント会場：シルクロード舞踏館（10/11） コンサート会場：横浜市開港記念会館（10/12）（予定）

（4）広報出版・情報発信

項 目	内 容
出版物発行	広報誌「横浜ユーラシア文化館ニュース」を作成する。 (各10,000部発行、年2回)
リーフレット類作成・配布	・横浜ユーラシア文化館案内パンフレットを配布する。 ・都市発展記念館と共同で催し物案内を作成・配布する。
ホームページの運営	ホームページでの最新情報、展示内容、資料解説、イベント等の案内、および、OPAC検索、全国漢籍データベースへのリンク
メールニュース配信	最新情報を確実に提供するため、登録された希望者にメールニュースを配信する。
外部機関との提携	<ul style="list-style-type: none"> ・日本大通り駅改札外掲示板へのポスター掲出 ・市営地下鉄関内駅改札外掲示板へのポスター掲出 ・インターネットでの施設案内 ・横浜中華街の店舗とのタイアップによる広報強化 ・テレビ、ラジオ等放送媒体による施設案内 ・フィルムコミッションへ積極的に協力し、当館を撮影場所としてPR ・タウン情報誌、旅行情報誌への施設案内掲載 ・市内観光案内所、ホテル・観光施設へのチラシ訪問配布 ・スタンプラリー等による集客 ・横浜フランス月間2009(6/1～6/30)参加 ・横浜アジアンウェーブ2009年(10/1～10/31)参加 ・横浜グランドミュージアムH21年度プロモーション参加(横浜観光コンベンション・ビューロー主催) ・ミュージアム・クイズラリー参加(夏期 神奈川県立博物館主催) ・JRデスティネーション・キャンペーン参加
市民ニーズの把握	実施事業でアンケートを行い、満足度調査と協働に対する市民ニーズの把握を行う。

(5) 学校連携事業

項 目	内 容
企画展の広報	企画展ごとに、財団エドゥケーターと協議して学校側のニーズを把握し、企画に反映させるとともに、教員向けの広報を行う。
クイズシートの作成	グループでの来館時に利用できるクイズシートを作成する。
教員への広報	教員向けに、施設を利用するうえでのポイントを説明し、資料活用を呼びかける。
職業体験プログラムの検討	中学生の職業体験のためのプログラムを検討する。

(6) 実習生の受け入れ

項 目	内 容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。約8名。

5 情報事業（寄附行為第4条第4・5・6号）

- (1) 収蔵資料等データ入力
各施設の収蔵品、寄贈・寄託資料及び市域指定文化財のデータベース化を図る。
- (2) ホームページを利用した情報提供
OPAC・全国漢籍データベースへのリンクを継続
新規にメソポタミアの資料である楔形文字粘土板文書の画像、翻字、和訳を公開
ホームページアクセス件数見込 30,000件
- (3) メールニュースの配信

6 ユーラシア文化館施設維持事業（寄附行為第4条第7号）

横浜ユーラシア文化館の施設維持および長寿命化を行います。

- (1) 施設の有料貸出に向けての環境整備
- (2) 広告料収入等の確保

X 三殿台考古館事業（事業予算 10,412千円）

〔 運営方針 〕

国指定史跡として保存されている三殿台遺跡は、学術的価値が高いだけでなく、市民参加の発掘調査の先駆けとして全国的に知られています。考古館は、縄文時代から続く歴史の証人である遺構と出土遺物を、適切に保存・管理して未来へ継承するための拠点となっています。そして、市民や来訪者にその意義を伝え、理解を深めるために、案内解説や体験学習などの活動を展開しています。

今年度は、市民ボランティアスタッフを養成し、収蔵された遺物の再整理や遺跡のガイドにあたり、地域や市民と協働で新たな事業に取り組んでいきます。

1 資料収集・保管事業（寄附行為第4条第3号）

- (1) 三殿台考古館保管の考古資料について整理を進める。
調査後収蔵されたままになっている出土品についての整理作業、現在展示中の遺物の補修・着彩、新たな復元等を行い、資料の保全を図る。

2 常設展事業（寄附行為第4条第2号）

- (1) 常設展示室の維持管理を行うとともに、展示内容のリニューアルに向けた検討をする。
- (2) 管理事務所2階も常設・収蔵品展示室とし、当遺跡の北側貝塚のはぎ取り資料の展示を行う。

3 企画普及事業（寄附行為第4条第2・4・5・6・8号）

本年度から、市民協働の一環としたボランティアによる遺跡ガイドが行われます。また昨年度より市民ボランティアにより収蔵資料の整理が行われてきましたが、その成果の一部を報告書として刊行

する予定です。

(1) 普及啓発

項 目	参加者見込数	目的・意図
展示解説の実施	5,000人	来館者にわかりやすい展示解説を実施する。
体験学習の実施	400人	(1) 火起こし・勾玉作り教室 (実施7・8月 毎土日 各回10～15人) (2) 土偶作り教室(実施7/19・20 事前申込 各回15人) (3) 土器作り教室 第1回 平成21年9月27日～11月14日(4回) 第2回 平成22年1月17日～3月8日(4回) 製作後は作品展を開催 (4) 勾玉作り・拓本教室(実施10・12・2月各1回 事前申込み 各回15人) (5) 火起こし・勾玉作り体験については随時実施する。
土器作り教室作品展	1,000人	土器作り教室の参加者が製作した土器を展示室で展示し合わせて施文具や制作方法などを解説していく。 第1回 平成21年11月21日～12月6日(4回) 第2回 平成22年3月13日～3月28日(4回)
キャンプ in 三殿台	6家族	家族が遺跡内で1泊2日の宿泊体験をし、遺跡の調査と原始・古代の生活について、わかりやすく解説する。

(2) 広報出版

項 目	内 容
リーフレット類作成・配布	解説パンフレット(大人及び子ども向け)を配布する。 当館の年間事業案内チラシを作成し、配布する。
報告書の刊行	遺物整理の成果報告書の刊行
その他の広報	インターネットを活用した広報を行う。

(3) 市民協働(「開港150周年記念事業」については再掲)

項 目	内 容
三殿台遺物資料整理	埋蔵文化財に関心ある市民に、ボランティアとして整理作業に参加してもらい、接合・復元、修復作業を市民協働で実施する。 埋蔵文化財修復方法を体得してもらうとともに、市民の生涯学習意欲に対応する。
三殿台遺跡ガイドボランティア	埋蔵文化財に関心ある市民に、ボランティアとして解説ガイドに参加してもらい、来館者への三殿台遺跡ガイドを行うとともに、生涯学習支援を行う。

横浜開港150周年記念事業 ミニコンサート	小学校・地域住民と協働で、演奏会等を開催する。 平成21年6月21日（日）
----------------------------------------	--------------------------------------------------------

4 三殿台考古館施設維持事業（寄附行為第4条第7号）

三殿台考古館の施設維持および長寿命化を行います。

(1) 三殿台考古館の管理

(ア) 経常的な維持管理

施設内の清掃・草刈り・樹木の剪定。復元住居・住居跡保護棟・展示室を良好な状態に保つための維持管理を行う。

(イ) 開館時間の拡大

午前9時から開館し、4月～9月は午後5時まで、10月～3月は午後4時まで開館する。一方、職員の施設内の定期的巡回・消火器設置拡充などの危機管理対策を実施する。また、車椅子やベビーカーでも利用しやすいようにするため、階段スロープ化等の実施に向け、検討する。

(2) 飲料販売

施設利用者の利便を図るため、施設内で飲料を販売する。



復元住居と遺構保護棟



展示室

収 益 事 業

[運営方針]

財団の自主性・自立性を高めるため、収益事業を行います。

I 歴史博物館収益事業 (事業予算 13,043千円)

1 歴史博物館収益事業 (寄附行為第4条第8号)

(1) ミュージアムショップの経営

歴史博物館のミュージアムショップにおいて、企画展関連グッズ、教材、図書、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

(2) 駐車場の経営

歴史博物館の来館者用駐車場を経営する。(館内42台、屋外140台、バス用6台)

(3) 自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、歴史博物館に自動販売機を設置し、飲食物を販売する。

II 開港資料館収益事業 (事業予算 5,478千円)

1 開港資料館事業 (寄附行為第4条第8号)

(1) ミュージアムショップの経営

開港資料館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

(2) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、開港資料館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

(3) 喫茶室の運営

来館者の利便を図るため、付属棟に喫茶室を設け、その運営を専門業者に委託する。

III 都市発展記念館・ユーラシア文化館収益事業

(事業予算 5,064千円)

1 都市発展記念館・ユーラシア文化館事業 (寄附行為第4条第8号)

(1) ミュージアムショップの経営

都市発展記念館・ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、研究紀要、関連図書等の出版物、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

(2) 飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、都市発展記念館・ユーラシア文化館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。